

教員の研修動画の選択行動の傾向に関する調査の試み

An Attempt to Investigate the Trends in Teachers' Training Video Selection Behavior

堀田雄大* 八木澤史子** 佐藤和紀*** 堀田龍也****
Yudai Hotta* Fumiko Yagisawa** Kazunori Sato*** Tatsuya Horita****

*熊本大学大学院 **千葉大学 ***信州大学 ****東北大学大学院
*Graduate School, Kumamoto University **Chiba University
*** Shinshu University **** Graduate School, Tohoku University

＜あらまし＞ 教員が研修動画を視聴する際の、動画を選択し視聴し始めるまでの過程を対象とし、操作内容、閲覧情報、操作意図を調査した。その結果、操作内容には「スクロール」「画面静止」等 5 項目、閲覧情報には、「動画カテゴリ」「動画タイトル」等の 7 項目が観察された。操作意図として「全体把握」「目的合致確認」「動画比較」「興味関心」「検索方法模索」の 5 項目が抽出され、選択行動の多くが、動画視聴の目的に合致するかしないかを意図して行われている可能性が示唆された。

＜キーワード＞ 教員研修, e ラーニング, 選択行動

1. はじめに

文部科学省 (2022a) は、教員の研修環境の変化として「オンラインによる受講環境の充実」をあげている。研修コンテンツを一元的に収集・整理・提供するプラットフォームの構築も検討されており (文部科学省 2022b)、今後は、対面に限らず、こういった環境を利用しつつでもどこでも学べるようなオンラインを活用した研修が期待され、行政研修の一環として教育委員会が研修動画を選択し、所属教員の研修に充てることも可能となる。

学習者が主体的に時間や場所を選択し、自らのニーズに応じて学ぶ方法の一つとして e-Learning がある。e-Learning では、学習者の特性を踏まえた教材提供の重要性が指摘され (大山ほか 2010)、学習者の特性を把握する視点として学習行為に注目して研究が行われている (大川内ほか 2012)。

これらの知見は、今後オンラインを活用して研修を行う際にも参考になると考えられるが、今後期待される研修では、1 つの動画を研修参加者が一斉に視聴するという形態ではなく、教員一人一人が異なる場所や時間に異なる動画を視聴するという形態が想定される。

そこで本研究では、教員が個別に研修に関する動画を視聴する際の学習行為に注目し、その実態を把握することを目的とする。具体的には、研修動画を視聴する際の学習行為の一つである動画の選択行動に着目する。その際、大川内ほか (2012) を参考に、研修動画を選択する過程を操作内容、閲覧情報、操作

意図の視点で調査することとした。

2. 研究の方法

調査は 2022 年 12 月に行った。異なる小中学校に属する 5 名の教員から協力を得た。教職経験は 2 年から 12 年までであった。

調査は次の手順で行った。①「教員研修の一環として、指定されたウェブサイトから研修動画を一本選択し、視聴する」ことを伝えた。研修動画は、独立行政法人教職員支援機構が運営しているウェブサイトの「動画教材」のページを指定した。②ウェブサイトアクセスしてから動画を視聴し始めるまで、カーソル移動やクリックなどの一連の操作を記録してもらうように依頼した。記録は、PC の画面収録機能を用いてもらうこととした。③記録された動画データを、第 1 筆者が指定した Google Drive 内に保存してもらった。④動画データを確認後、別日に、画面を操作した場面についての半構造化インタビューを行った。⑤操作が記録された動画を視聴しながら、操作がなされた場面について「何を見ていたか」「どうしてその操作をしたのか」を尋ねた。

インタビューは、許可を得た上で記録し文字起こしした。分析は大川内ほか (2012) を参考に次の手順で行った。①動画を視聴し、画面を操作した場面を抽出した②抽出された場面を操作の種類 (以下、操作内容) に応じて分類した③インタビューから①で抽出された場面で見えていた情報を「閲覧情報」として分類した④インタビューから①で抽出された

場面において操作をした理由を「操作意図」として分類した⑤各項目において観察された回数をカウントした。

3. 結果と考察

表1に操作内容、閲覧情報、操作意図と観察された回数を示す。（括弧内の数字は、観察された回数を示す）操作内容は、「ページ移動（14）」「スクロール（15）」「画面静止（4）」「カーソル移動（1）」「サイト内検索（2）」の5つに分類された。閲覧情報は、「ウェブページ全体（9）」「動画カテゴリ（7）」「動画テーマ一覧（3）」「動画タイトル（8）」「講師名（7）」「概要欄（6）」「検索結果一覧（2）」の7つに分類された。

操作意図は5つに分類された。「全体把握」は、何がどこにリンクされているのか確認する様子である。「目的合致確認」は、視聴目的に合致するかどうかを確認する様子である。「動画比較」は、研修動画の内容を比較する様子である。「興味関心」は、動画内容に興味関心を高めた様子である。「検索方法模索」は、動画の検索方法を模索する様子である。操作内容では、ページ移動やスクロールが多く観察され、閲覧情報では、動画カテゴリ、テーマ一覧、タイトル等の多様な視点から情報を得ている実態が示唆された。操作意図では、「目的合致確認」が最も多く、26回観察され、協力者5名全員が行なっていた。選択行動の多くが、目的に合致するかないかを意図して行われている可能性がある。「検索方法模索」は7回観察された。動画テーマ一覧、サイト内検索等を基に操作する様子がみられた。「興

味関心」は、動画タイトル等を画面静止して読むときにのみ観察された。「全体把握」は、ウェブページ全体と動画のカテゴリを閲覧する際に観察された。「動画比較」は、同じ講師で複数の動画が示されているときに観察された。これらのことから、教員が動画を選択する際は、検索方法の模索、動画比較といった行為によって目的に合う動画を絞っていくことが考えられ、そういった行為の後、本人が視聴したい動画を選択できるような動画の提供方法を検討していくことが考えられる。

4. 今後の課題

今後は、教員の選択行動の傾向と学習特性との関連を明らかにしていきたい。

参考文献

- 文部科学省(2022a)「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて（審議まとめ）（参照日 2023.1.7）
- 文部科学省(2022b)令和5年度予算概算要求 主要事項（参照日 2022.12.30）
- 大川内隆朗, 大谷淳, 米村俊一, 徳永幸生 (2012) e-learning 用講義ビデオにおける学習者の学習行動を利用した主観的難易度の把握方法の基礎的検討. 日本教育工学会論文誌, 36(3):193-203
- 大山牧子, 村上正行, 田口真奈, 松下佳代 (2010) e-Learning 語学教材を用いた学習行為の分析：学習スタイルに着目して. 日本教育工学会論文誌, 34(2):105-114

表1 各協力者から操作内容・閲覧情報・操作意図として観察された回数

操作内容	閲覧情報	操作意図				
		全体把握	目的合致確認	動画比較	興味関心	検索方法模索
ページ移動 (14)	ウェブページ全体 (7)	1	1	0	0	1
	動画のカテゴリ (5)	0	5	0	0	0
	動画のテーマ一覧 (2)	0	0	0	0	2
	動画タイトル (2)	0	2	0	0	0
	概要欄 (2)	0	2	0	0	0
スクロール (15)	ウェブページ全体 (1)	0	0	0	0	1
	動画のカテゴリ (2)	1	1	0	0	0
	動画のテーマ一覧 (1)	0	1	0	0	0
	動画タイトル (3)	0	3	0	0	0
	講師名 (6)	0	5	1	0	0
	概要欄 (2)	0	2	0	0	0
画面静止 (4)	動画タイトル (3)	0	2	0	1	0
	講師名 (1)	0	1	0	0	0
	概要欄 (2)	0	1	0	1	0
カーソル移動 (1)	ウェブページ全体 (1)	0	0	0	0	1
サイト内検索 (2)	検索結果一覧 (2)	0	0	0	0	2
合計		2	26	1	2	7